

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会的養護内容 <b>Child Welfare Practice</b>		2年	前期	火曜日・3時限 水曜日・4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会的養護				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登	本館2階	火曜から金曜日の9時から17時		授業中に指示します
授業の概要				
保育に欠ける子どもたちの生活の場である児童福祉施設(入所型・通所型)における保育士に必要な知識や業務内容について学ぶ。そこで求められる保育士の支援は子どもの最善の利益が考えられたものでなければならないが、受講者のほとんどは今までに施設での生活体験や実習体験がないと思われるので、その理念をより具体的に理解してもらうため、この授業では主に事例を通して理解を深めることを狙っている。				
授業の到達目標				
保育に欠ける子どもは国が責任を持って養育するという社会的養護では、施設保育士は単に家族の代替者ではなく、子どもとその家族の支援の支援者であることを理解し、子どもの最善の利益を考えた支援を考えられるようにする。また、自分とは異なる考え方があることを体験的に理解し、思考を深めることができるようにする。				
授業の方法				
毎時間事例を用意するので、まず自分の考えをできるだけ明確にまとめ、グループ討論の中で発表し、また他者の考えを聞くことにより、自分では気づかなかった視点があったらそれを吸収し自分の考えを深めてほしい。				
学習の成果				
すでに全員が社会的養護を受講し少なからず知識を持っていると思うが、社会的養護にマイナスのイメージを持っている学生もいるのではないかと思います。対象が良く把握できていない時に不安が生じるので、この授業を通して支援の考え方や具体例を学ぶことで、不安感を軽減でき、また、夏休みにある保育実習(児童福祉施設)を楽しむことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業内容の説明、評価法)			
第2回目	特別に支援を要する子どもの保育の現状報告1(保育所実習を振り返って)			
第3回目	特別に支援を要する子どもの保育の現状報告2(保育所実習を振り返って)			
第4回目	児童養護の過程と自立支援計画(講義)・映像資料			
第5回目	子どもの最善の利益を考える(福祉型障害児入所支援の事例)・映像資料			
第6回目	子どもの就学問題を考える(児童発達支援の事例)			

第7回目	日常生活の支援とコミュニケーションを考える(医療型障害児入所支援の事例)・映像資料		
第8回目	障害児支援で直面する問題(てんかんと感覚障害:講義)・映像資料		
第9回目	子どもとの適切な距離の取り方を考える(児童養護施設の事例)・映像資料		
第10回目	被虐待児の行動と対応を考える(児童養護施設の事例)・映像資料		
第11回目	発達保障について考える(乳児院の事例)・映像資料		
第12回目	配属先施設での保育実習ではどんなことを課題に実習を行うか考え、まとめる		
第13回目	保護者の気持ちを理解した支援を考える(施設に子どもを預けている保護者の話)		
第14回目	施設内の体罰について考える		
第15回目	日課や規則について考える		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		14%	ディスカッションで自分の意見を発表し、他者の意見を参考に自分の意見を深められれば、第1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15回の授業で毎回1点をつけます。
レポート		15%	第13回目の保護者の話に対して、800字以上の感想文を提出してください。
調査報告書		15%	保育所実習での「特別に支援を要する子どもの調査」を提出してください、5点。次の保育実習ではどんなことを課題とするかまとめる、10点。
小テスト		8%	第4, 8回の講義に対する穴埋め10題、論述1題の小テストです。穴埋め10問正解で3点、8題で2点、6題正解で1点、論述課題1点。4点×2=8。
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)		48%	第1, 2, 3, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 14, 15回のワークシートで、自分の考え2点、みんなの発表を聞いて自分の意見が深められていれば2点をつけます。4点×12回=48点
その他			
教科書と参考図書			
毎時間資料を用意します。			
履修上の心得・ルール			
事例に対し、他者の意見も尊重して自分の考えを深められることが大切です。			